キリスト教保育

2025年2月1日発行（毎月1回1日発行）第671号

年主題
さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説
『キリスト教保育指針2024年度版』解説（1）
松浦浩樹

小論
植物が教えてくれること（1）
山崎裕

2025 FEB. 2

いつも、喜んでいなさい。絶えず、祈りなさい。
すべてのことについて、感謝しなさい。

聖書 口語訳聖書・テサロニケ人への第一の手紙5章16 ～ 18節

今月の聖書の言葉は、日常生活の大切さをしっかりと踏まえ、そのまま現代の私たちにも強く迫ってくるのである。

喜びと祈りと感謝－キリスト教生活は喜びであると言ってもよい。また、祈りであり、感謝であるとも言える。聖書の中にこれらの言葉が、いかに多く語られていることであろう。そして、この三つはそれぞれに深い内面的なつながりを持っているのである。喜びと祈りと感謝は、相互に支えられ、結ばれ合っているのである。信仰と希望と愛の結びつきと（1章3節、5章8節等)、相呼応するといえようか。

「いつも、喜んでいなさい」いつも－厳しい言葉である。喜べるような時だけではなく、喜べそうもない時、様々な困難や苦労があなた方を悩ませるような時にも、「いつも、喜んでいなさい」というのである。それは、もはや人間的な喜びではないであろう。「主にあって喜べ」ということなのだ。何を本当に喜びとしているかによって、私たち自身の在り方が決せられるのである。自らの喜びの根拠が神に由来する時、失われない喜びを持つことができる。子どもたちの前で、あらゆることを喜ぶことのできる保育者となりたいものである。

「絶えず、祈りなさい」私たちの祈りは自己本位である。祈る必要がある時か、祈らねばならない時には、一生懸命祈るのだが、絶えず祈ることはできないのである。絶えず祈れとは、自分の都合や気分に左右されるのではなく、何よりも祈る人となれということであろう。真の保育者とは、一人ひとりの子どものために祈る人ではなかろうか。愛は相手のために祈るところから始まるのである。

「すべてのことについて、感謝しなさい」私たちは、すべてのことを感謝できるであろうか。感謝できることは感謝するが、感謝できないことは感謝しないのである。しかし、聖書はすべてのことを感謝せよと、求める。幸せな時だけではなく、病気や苦しみの時にも、誤解や迫害に出会う時にも、というのである。結局、私たちの心が変えられなければ、すべてのことを感謝できないのだ。私たちの中にみ言葉が生きてくると、私たちは変えられるのである。私たちを神は恵みをもって愛しておられる－そこにすべてを超えた感謝の根源があると言わねばならない。

園での礼拝やお祈りを続けてきた子どもたちの中に、祈りや感謝の生活が根付いているであろうか。祈りや感謝の生活は、言葉や形だけで教えられるものではない。保育者自身の生活の問題なのである。

（田井中　純作・執筆　時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）
1976年『キリスト教保育』誌2月号より

新共同訳ではテサロニケの信徒への手紙一5:16 ～ 18「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」です。一部省略、要約してあります。

キリスト教保育

第671号2月号

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

幼子とともにキリストへ　2
目次　3
〈巻頭言〉襲名披露公演　寺嶋櫻子　4
〈論説〉「キリスト教保育指針 2024年度版」解説（1）　松浦浩樹　6
〈小論〉植物が教えてくれること（1）　山崎裕　16
図書紹介　齋藤靖明　大村海太　21
聖書に聞く・お話　月下星志　22
【カリキュラム】
2月　月のねがい表　25
心にとめて　児玉純子　26
実践報告　栄光こども園　28
実践からの学び　犬童れい子　33
心にとめて　永瀬真澄　34
実践報告　尚絅学院幼稚園　36
実践からの学び　矢野キエ　41
私たちの園では　赤坂洋子　42
〈連載〉アタッチメント　遠藤利彦　44
〈連載〉日々、子どもたちから学んでいること　斎藤惇夫　46
目福口福耳福　熊田凡子　49
絵本のとびら　伊集院玲子　50
礼拝のお話　片岡朝子　51
子どもと賛美するために　62
風　柴田俊　編集子　三ツ橋ゆり　63
連盟だより　64

表紙絵　田中槙子
カット　中畝治子　小鯛みのり　藤安初枝　松成真理子　金井ユリ